良性結節切除術

北 原 哲

Post-operative Hoarseness of Vocal Nodules

Satoshi Kitahara

Post-operative hoarseness of vocal nodules is due, for the most part, to inadequate procedure in the operation of the lesion. This inadequate procedure may be classified into two categories: incomplete and excessive resection.

Poor surgical technique, insufficient knowledge of vocal nodules and vibration of the vocal folds, excessive confidence in surgical technique are mentioned as causes of excessive resection. Incomplete resection can be treated by re-operation, however there is no effective step against excessive resection.

Comprehension of the vocal fold vibration, mastery of surgical technique, and avoidance of excessive resection are important as countermeasures.

Key words : 声帯ポリープ, 声帯結節, 術後嚙声

音声改善手術の対象となる疾患において、術前の音声に対して、改善度の極めて少ないもの（不変）及び悪化を術後嚙声とすればよいものと、聴覚的に嚙声を認めた時、術後嚙声とすべきものがある。術後嚙声の定義は人によってかなりの幅があるが、良性結節を多く扱っている経験者の場合、術後音声をイメージしたうえで手術に臨んでいる。手術終了時に術後音声や声帯振動がイメージできるとき、手術操作に起因した術後嚙声に悩むことはない。

1. 原 因

- 1) 手 術
- 不十分な切除
 - 不十分な切除 + 過剰切除（取り過ぎ）
 - 過剰切除

「取り過ぎ」がおこる背景として、次の a. b. c. がある。

a. 指導医のもとでの手術

b. 一応手術ができる術者の手術

c. 知識経験が豊富な術者の手術

a. b. は「よく知らないため」、c. は「よく知っている」ためにおこる。

a. c. は「取り過ぎ」を最小限に押さえられるが、b. は危険度が高い（図）。

2) 創傷治癒の阻害

術後の局所安静が保たれない

体質

3) その他

喉の過保護

発声の悪習慣（仮声帯発声）

図 「取り過ぎ」 (→印)

挿管による損傷

これらの内、術後嚙声として問題になるのは、圧倒的に過剰切除（取り過ぎ）が原因である。

「取り過ぎ」の背景として

a. 指導医のもとでの手術

手術器具の扱いの未熟さによる。

b. 一応手術ができる術者の手術

手術器具の扱いはできるが、病変部の境界の識別、切除範囲の決定に難がある。

術後音声や術後声帯振動を予測できない。

2. 術後嚙声に対する治療

切除不足—再手術

取り過ぎ—未開発である

現在行われているものとして

voice therapy---ex) pushing method

ネブライザー

ステロイド注入

シリコン注入

アテロコラーゲン注入

などがあるが、決め手になるものはない。

3. 対 策

1) 声帯振動の理解

声は声帯の上皮および粘膜固有層の振動によってつくられる。良性結節は上皮および粘膜固有層の疾患であることを認識することが肝要である^{1~3)}。

2) 手術手技の習得

良性結節の術後嚙声の原因は圧倒的に手術に起因する。よって

術野の取り方

鉗子などの操作 に習熟する⁴⁾。

4. 結 論

良性結節における術後嚙声は病変部の切除が「不十分」な場合と「取り過ぎ」た場合におこるが「取り過ぎ」による術後嚙声に対して、現在決め手となる救済措置はない。「取り過ぎ」の罪を犯さないことのみが対策である。

参 考 文 献

- 1) 平野 実ほか：振動体としての声帯の構造。日耳鼻 76：1341~1348, 1973.
- 2) 磯貝 豊：X線ストロボスコーピーによる声帯振動の解析。耳鼻 27(補3)：883~930, 1981.
- 3) 都築 達：声帯層構造を考慮した声帯振動の基礎的研究。耳鼻 30：131~152, 1984.
- 4) 斎藤成司：発声機構の基礎的研究および喉頭内腔へのアプローチ—声帯結節—。耳鼻 23(補1)：307~315, 1977.

別刷請求先 〒359 所沢市並木 3-2

防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座 北原 哲